

016

横浜学

郷土横浜の史的事象を介して実感する日本の近代

講座内容

開港と同時に横浜は海外文化受容のフロントに。その横浜文化をハイカラ文化と称するように、外国人との共生に横浜固有の文化が誕生した。本講座では、そのような横浜の固有の文化を介して日本の近代と近代化についてアプローチ。

期 間	5月14日～7月2日	受講料	10,000円
曜 日	火曜日	定 員	40名
時 間	13:30～15:30	会 場	横浜・関内キャンパス
回 数	全8回	持ち物	筆記用具
教 材	講師が毎回レジュメやプリントを用意します。		

講座スケジュール

回数	日 程	内 容	担当講師
1	5月14日(火)	みなと論番外編：ご存知でしたか？鎌倉時代の外貿港 —和賀江島と六浦湊—	小林 照夫
2	5月21日(火)	ペリーが着目した横須賀・横浜の沿岸域には英字名が —黒船がポイント・ルビコンを越えアメリカン・アンカレッジに—	小林 照夫
3	5月28日(火)	ペリー提督とハリス総領事 —横浜を拓いた彼らの思惑—	小林 照夫
4	6月 4日(火)	横浜開港とハイカラ文化 —異文化空間としての横浜—	小林 照夫
5	6月11日(火)	横浜中華街の形成 —中国人は西洋文化の介添人—	小林 照夫
6	6月18日(火)	「慶応の大火」(通称、豚屋火事)と第三回地所規則 —山手を包摂した横浜の都市(まち)造りがスタート—	小林 照夫
7	6月25日(火)	「日本の灯台の父」ブランドンは近代的都市づくりのプランナー —横浜理解のポイント「日本大通」・「横浜公園」・「吉田橋」等には彼の手が—	権田 益美 小林 照夫
8	7月 2日(火)	商権回復と聯合生糸荷預所 —原善三郎、茂木惣兵衛等の横浜商人が不平等貿易の解消にチャレンジ—	小林 照夫

講師紹介



小林 照夫(こばやし てるお)

本学名誉教授

博士(社会学)。本講座に関連した小林の著書としては、『歴史としての近代』編著(八千代出版)、『港都横浜の文化史論』編著(関東学院大学出版会)、『日本の港の歴史』(成山堂書店)等。他の関連著作等については、ウィキペディア小林照夫を参照ください。



権田 益美(ごんだ ますみ)

本学国際文化学部非常勤講師

博士(文学)。ここでは本講座の権田の担当分と関連した拙稿「横浜における日本最初の西洋式公園の誕生—「彼我公園」・「山手公園」建築と利用に関する同一性と異質性—」(IKGU比較文化論集 第14号、2024年)を紹介させていただきます。